

ダンスの公開ワークショップ&ショーイング

第1部【ダンス・ワークショップ&レクチャー】
「体育の授業に生かすダンス・ワークショップ」
指導：山田うん, Co. 山田うんダンサー

【ダンス・ワークショップ&レクチャー】

愛知県内の2校の公立中学校より参加者を募集し、舞踊家の山田うん氏により保健体育授業で展開できるダンス内容を指導して頂いた。受講した中学生の中にはダンス初体験という生徒もいたが、徐々に表情を緩ませ、体を弾ませながら、ワークショップを楽しんでいた。



「他者と共感する動き、誰とも共有できない自分だけが実感できる動き、など様々な動きを通して、体操でも遊戯でも表現でもない「何となく動こうかな」という動きを体験します。そして徐々に、体、頭、心そして空間をフルに使った「全身以上の時間」へと。生徒達全員と共に楽しみながら時間を作っていきたいと思います。」
(山田うん)

【アウトリーチ・プログラムのショーイング】

「劇場におけるアウトリーチ～ダンス・プログラムの可能性～」に合わせ、愛知芸術文化センターが企画招聘した舞踊家による2つのアウトリーチ事業の成果作品を舞踊学会大会の「ショーイング」公演として愛知県芸術劇場小ホールで発表した。

① 山田うん作品『コーラス』

愛知県内の小・中学校、高等学校教員を対象に、2013年11月9日、16日の計2回、山田うん氏がダンスのワークショップを行い作品を完成させた。中学校でのダンス必修化を念頭におきながら、学校現場でのダンス指導法を伝授するとともに、教師自身が持つ表現の可能性を広げたワークショップとなった。本番では山田氏と参加した教師の独特の雰囲気がステージ上で繰り広げられ、観客を引き込んでいた。

「音楽と動き、動きと声、自分の体と気分、他人の体と空間、自分と他人、個人と集団、イメージと現実。何かを繋いだり切り離したりしながら自然に生まれたルールを創作しました。自由に踊る喜びと、創る大変さ、

第2部【アウトリーチ・プログラムのショーイング】
① 山田うん作品『コーラス』
② ジェコ・シオンポ作品『30 ONIGIRI』

達成感など、様々な心理状態を体験することが豊かなダンス指導の扉を開く鍵になることを願って。」

(山田うん)



② ジェコ・シオンポ作品『30 ONIGIRI』

至学館高等学校ダンス部の生徒を対象に、10月24日～12月6日の間、計20回のワークショップを開催。講師のインドネシア出身のジェコ・シオンポ氏は、民族舞踊にヒップホップやコンテンポラリーを融合させたアニマル・ポップという新たなダンススタイルを確立した世界的な振付家であり、この作品でも振付・映像・音楽のすべてを演出し、完成度の高いダンス作品を創作した。

作品冒頭では、シオンポ氏が自ら制作し、至学館高等学校ダンス部員が出演している映像が流れた後、ダンスパートが続いた。シオンポ氏は今回の企画に対し、大変精力的に取り組み、日本の高校生とも密な交流を持つことが出来たと喜んでいて。また生徒側も海外の振付家と接したことで、普段とは違う達成感を感じたと共に、未知の世界を体験することで、さらにダンスへの意欲が高まったようだ。今回創作された作品は、シオンポ氏から至学館高等学校ダンス部へ寄贈され、今後も再演され、次世代へと継承されていく予定である。



(Photo: Hatori Naoshi)